

2030

2030年の鹿大 — 鹿大改革の前進のために —



国立大学法人
鹿児島大学

人・知・地域が響きあう
アカデミック・コミュニテイ

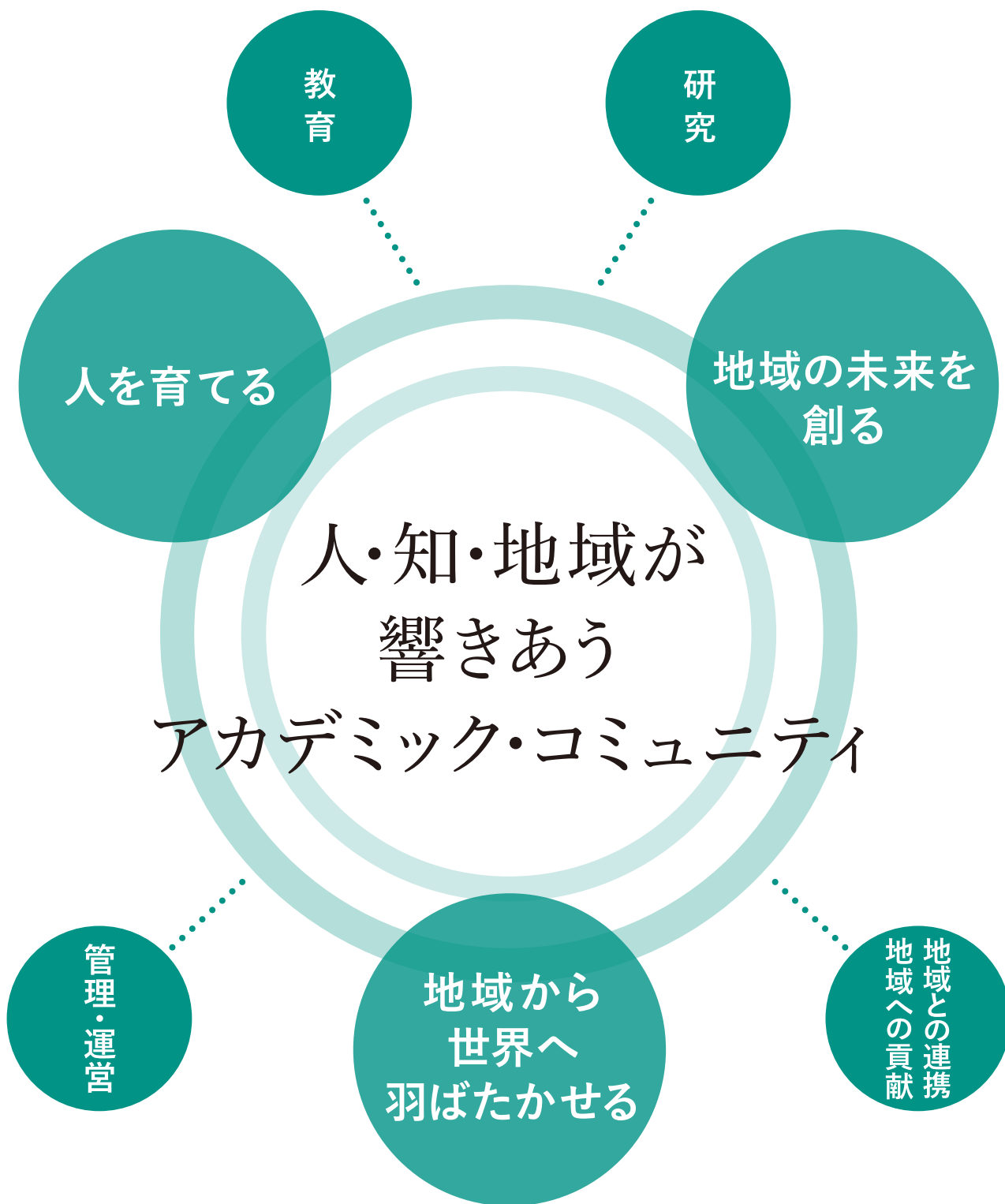


Contents

- 1 策定のねらい
- 2 鹿児島大学を取り巻く環境
- 3 プラン策定の留意点
- 4 「2030年の鹿大」目指す姿の全体像
- 5 各領域(教育、研究、地域連携
及び貢献、管理・運営)の目指す姿と
主な取り組み事例



2030年の鹿大



1

策定のねらい

鹿児島大学はすでに鹿児島大学憲章を制定し、また、法人化以後、6年単位の中期目標・中期計画を策定し、その下で様々な施策を積み重ねてきています。さらに、2014年までに各部局がミッションの再定義を行うとともに、2015年には鹿児島大学として地域に立脚し地域に貢献することを目標に掲げることを選択しました。

鹿児島大学憲章に謳われた「進取の精神」を身につけ発揮する人材を養成し、地域と積極的に連携し協働しながら地域とともに世界に向けて発信し世界に対して貢献することが鹿児島大学の目指すべき方向性であり、そのために学長のリーダーシップの下での自主的・主体的な改革を進めていかねばなりません。

前述のとおり、国立大学法人は、6年間を単位とする中期目標・中期計画の策定とそれに基づいた事業を行っていますが、今後の大学を取り巻く環境の変化を視野に入れた長期的な見通しと関連づけて進める必要があります。

このような趣旨から、具体的な数値目標やロードマップについては引き続き中期計画にて策定することとし、今後の中期目標・中期計画策定の指針にもなる、より長いタイムスパンをもつプランとして「2030年の鹿大-鹿大改革の前進のために-」を策定することとしました。

本プランでは、「2030年の鹿大」のあるべき(あってほしい)姿を提示し、その姿に近づくため、強みをさらに伸ばす観点と弱みを克服する観点到に立脚し、今後取り組むべき事例を提示することにします。

本プランを通して、鹿児島大学が目指す方向性を広く大学内外に示すとともに、これからの鹿児島大学を担う教職員が、ここに示した将来像を共有し、学長のリーダーシップの下、様々な創意工夫を積み重ねていくこととします。

2

鹿児島大学を 取り巻く環境

鹿児島大学を取り巻く環境は大きく変化しており、さらに2030年までに一層大きな変化の波にさらされます。特に鹿児島大学の今後を考えるために認識すべき環境の変化として、四つの問題があります。

1 人口減少社会と受験生の減少

日本全体の人口減は今後も続きます。特に大学進学者数に直結する18歳人口は今後も減り続け、2030年には約100万人(2017年は約120万人)となることが予測されます。

鹿児島大学は、志願者のおおよそ半数を県内出身者が占めています。鹿児島県においては、2030年には人口約145万人(2015年は約165万人)、18歳人口も2017年の約1.61万人から2030年には約1.44万人となる見込みです。鹿児島県内の18歳人口の減少を勘案すると、人口減に伴う受験者数減は避けられない状況も想定されます。これに伴い、学生の質の変化と多様化が進み、それに対応した入試のあり方、大学教育のあり方が求められます。



2 運営費交付金の削減等の 厳しい財政環境

法人化後、毎年約1億円ずつ運営費交付金の削減が続いており、国・地方の財政状況を考えた場合、今後も引き続き削減がなされると予想されます。現在の削減幅が続く場合、2030年は2017年より約13億円の減となります。経営の観点を踏まえた効率的運営の必要性が一層高まるとともに、寄附等の収入源確保のための努力が必要となります。

3 地域の危機の進展

現在、地方創生のための様々な施策が行われていますが、東京一極集中と地方の衰退にはなかなか歯止めがかかりません。特に非都市部においては、限界集落問題に象徴されるように地域の維持それ自体が困難になっています。地域の危機的な状況は今後ますます進み、離島僻地を多く抱える鹿児島県の場合、問題は特に深刻なものとなることが予想されます。人材不足を補うためのロボット、IT等の発展や海外人材の登用が進むことが予想されます。少子高齢化先進地域である鹿児島において、大学は何ができるのか、その役割と成果が一層厳しく問われることとなります。

4 グローバリズムの進展

グローバリズムの進展がさらに加速化し、人・モノ・情報の国境を越えた動きによる社会の変容もまた進むことが予想されます。高等教育の面では学生の国境を越えた移動の増大等、学術研究の面では国際的舞台での競争のさらなる激化等、また地域社会においても国際的な自由貿易拡大への対応等、グローバリズムが与える影響への対応が不可避になっています。

3

プラン策定の 留意点

本プラン策定においては、上記2の今後の環境の変化を踏まえ、特に次の三つの点に留意しました。

1 地域の特性を活かした 個性的な大学の道

大学として発展の道を探るためには、地域の特性を活かした個性あふれる大学を目指す必要があります。と同時に薩南諸島、さらにはアジア太平洋地域をはじめとする国際社会をにらんだ南九州に不可欠な総合的な国立大学としての存在感を高めることも重要です。

2 長期的・計画的かつメリハリのある改革

場当たりの施策を行うのではなく、大学を取り巻く環境の変化の行方を視野に入れ、教育、研究、地域連携及び貢献、管理・運営の各領域が個々バラバラではなく相互に連携して行うべき取り組みを示します。

3 強みを伸ばし弱みを克服する

「2030年の鹿大」のあるべき(あってほしい)姿を提示し、その姿に近づくための取り組みについて、強みをさらに伸ばす観点と弱みを克服する観点到に立脚して提示することにします。



4

「2030年の鹿大」 目指す姿の全体像

「2030年の鹿大」が果たすべき役割を「育て」「創り」「羽ばたかせる」という三つに整理します。これら三つの役割を可能にするために様々な取り組みを行い、そのことを通じて私たちが目指す2030年の鹿児島大学の全体的なイメージを《人・知・地域が響きあうアカデミック・コミュニティ》とします。そうしたイメージを実現していくために、教員と職員が協働し、変革への絶えざる努力を重ねていきます。また、私たちの求める姿とそのため様々な試みを積極的に社会に発信していきます。

「2030年の鹿大」が果たすべき役割とは以下の三つです。

1 人を育てる

広い視野を有し、新たな価値の創出や実践的な課題解決を通して国内外の社会で活躍できる人材を育てます。

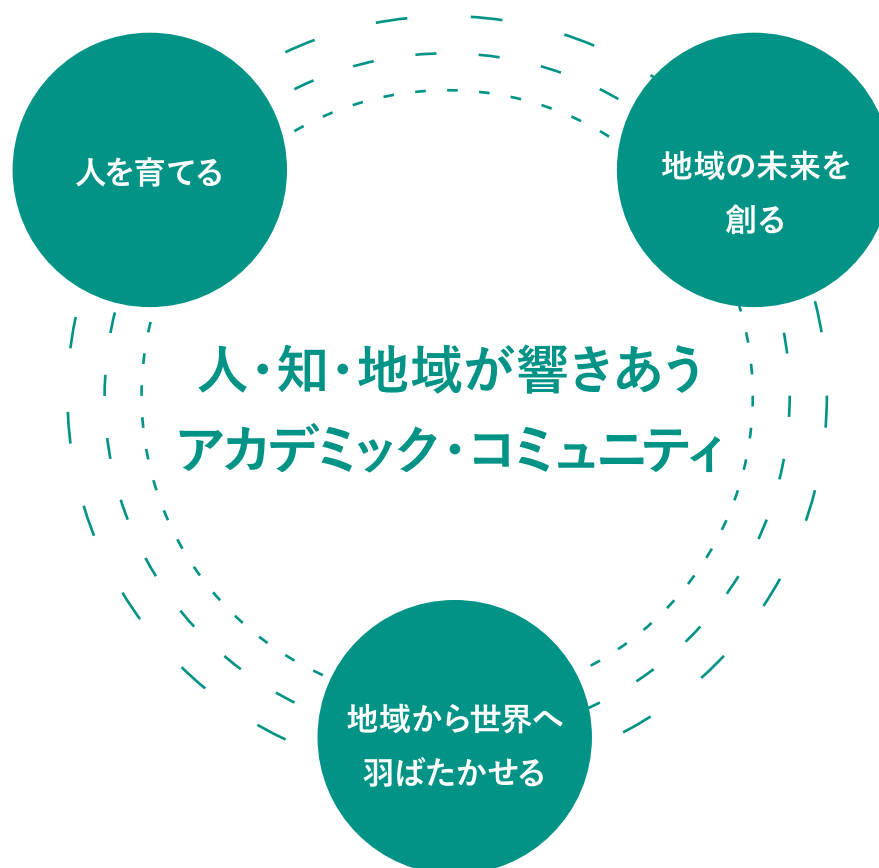
2 地域の未来を創る

島嶼を含む南北600キロの地域の文化・学術・イノベーションの中核拠点として、地域のニーズに密着した教育と研究を通して、豊かな地域の未来を切り拓きます。

3 地域から世界へ羽ばたかせる

地域を閉じた世界としてではなく、大きく変容する世界と連動した「開かれた地域」と考え、地域と世界を往還できる人材と知を鹿児島から生み出し羽ばたかせます。

これら三つの役割を可能にするために様々な取り組みを行い、そのことを通じて私たちが目指す2030年の鹿児島大学の全体的なイメージは、
《人・知・地域が響きあうアカデミック・コミュニティ》



2030年の鹿児島大学の姿を実現していくために、教員と職員が協働し、変革への絶えざる努力を重ねていきます。また、私たちの求める姿とそのため様々な試みを積極的に社会に発信していきます。

以下では、教育、研究、地域連携及び貢献、管理・運営・インフラ整備(※)のそれぞれの領域でのあるべき姿を示し、そのためにどのような取り組みが必要なのかを示します。

※なお、インフラ整備については、キャンパスマスタープラン検討ワーキンググループで長期計画を策定しており、本プランでは必要最小限の記載に留めます。

5

各領域（教育、研究、地域連携）
及び貢献、管理・運営

の目指す姿と 主な取り組み事例

5-① 教育

未来への物語を鹿大で創る

5-② 研究

地域と世界を結ぶ新たな知を鹿大で創る

5-③ 地域との連携、地域への貢献

地域とともに地域の未来を拓く

5-④ 管理・運営

人と知と地域をつなぐ



5-① 教育

未来への物語を鹿大で創る

① 多様な人材を積極的に受け入れ、共に学び育ち、誰もが自己実現できる教育を行います。

●鹿児島県内の小学校・中学校・高校との連携を強化し、鹿児島県における将来性豊かな大学進学希望者の拡大を図ります。

●県外の大学進学希望者、国際バカロレア資格取得者、アジアをはじめとする海外からの留学希望者などの動向を的確に把握し、本学への入学希望者の増大を図ります。海外の留学希望者との接点を強化するため、海外と鹿児島のハブキャンパスの機能をもつ県外オフィスの設置を検討します。

●基礎学力をベースとした様々な能力(思考力、判断力、表現力、主体性、協働性等)を備えた学生を幅広く受け入れるため、ポートフォリオ入試の導入など学力を多面的に評価できる入試を行い、それぞれの個性に応じた自己実現を支援します。

●社会人学生の入学を促進するため、産業界・自治体と連携しつつ、働きながら長期にわたり単位を修得し学士を得るパートタイムスチューデント制度の導入などを進めます。また、人生の様々なステージで社会人の学び直し、リカレント教育の拠

点としての機能強化に努めます。

2 社会の変容に対応し、自ら判断を下しながら協働による解決能力を身につけた人材を育てます。

●主体性を持ち客観的な視点に立ちながら判断し行動できる人材を育てるため、共通教育を充実させるとともに、共通教育と専門教育の間、異なる専門教育の間の有機的な連関を強化し、多様な教育方法を開発し実践に移します。

●「地域人材育成プラットフォーム」を通して、地域マインドをもち「開かれた地域」の諸課題の解決に積極的に取り組む能力を有する人材を育てます。



●地域や産業界の多様な要請を踏まえ、中長期インターンシップ等の社会と連携した教育を行い、卒業後の進路と有機的に結びついたキャリア教育を進めます。



●学生の自学自習を伴う教育の質保証を実現するとともに、アクティブラーニングを基本とする授業を推進し、これまでの講義体系を見直します。

3 新たな発想により社会の発展をけん引する人材を育てます。

●多様な学生と社会のニーズに即応でき、従来の学部単位、大学単位の教育の枠を超えた、新たな発想を導き出す、文理融合、分野横断、大学間連携タイプの教育プログラム・コースや、学習意欲が極めて高い学生がさらにその能力を伸ばすための学習機会を提供するための教育プログラム・コースを設置します。

- 研究志向の強い学生のニーズに応えるため、低学年次からの教育プログラムを開発します。

4 国際社会の多様性を理解し、グローバル化に対応できる人材を育てます。

- 国際社会で活躍できる人材の育成と海外からの留学生の受け入れ促進のために、日本人学生に対しては異文化理解能力や英語やその他の外国語によるコミュニケーション能力を高めるための教育システムの整備を、外国人留学生に対しては留学目的に対応できるシステムの整備を進めます。

- 学生の海外派遣数と留学生数の拡大を進めるため、英語による情報発信、アジア太平洋地域を中心とする海外の学術交流協定校の拠点化、アフリカ・中東・東欧や中南米等より遠隔の地域との交流の開拓、協定校と連携した短期セミナーの充実等を図ります。

- 日本人学生と留学生が相互に刺激を与えあい成長するために、混住型学生寮をサポート体制とともに整備します。

5 学生の経済的、心身的な諸課題を把握し適切にサポートします。

- 学習意欲の向上、海外留学の促進、就学困難学生のサポート等の目的に応じて、表彰制度や奨学金制度等の支援制度を充実させます。

- 子育てをしながら学ぶことができる、働きながら学ぶことができるなど、多様な学生が学ぶ環境を整備します。

- 学生相談窓口を充実させるとともに、心身の困難を抱える学生をサポートできる体制を整備します。



5-② 研究

地域と世界を結ぶ新たな知を鹿大で創る

1 地域の特性や課題と結びついたユニークな研究を推進します。

- 全国有数の食料生産基地(農・畜・水産)である地域特性を活かした、学際的な研究を推進するため、「食と生活」を最上位概念として、「医療・薬」、「健康」、「防災」、「地域社会」、「行政」等の各学問分野を横断した研究を進めます。
- 火山、宇宙、自然環境など、鹿児島島の地理的な特性と結びついた特徴的な研究を発展させるために、全学的な組織横断的プロジェクトを進めます。
- 生態系・生物多様性保全上、国際的に重要な奄美群島において、学術・文化・教育・研究の拠点化をさらに進め、薩南諸島を国内外の生態系・生物多様性・地史・島嶼等の研究が交流・合流する場とします。



2 多様な研究分野を擁する総合大学としての強みを活かして、新たな知の創出を進めます。

●学術研究院制度を活用し、University Research Administrator (URA)*を中心とする研究支援体制を強化することを通じて、様々な分野を横断した研究者間の協力による研究分野の開拓を進めます。

●鹿児島大学としての特徴を活かした学際的かつ先進的な研究を進めるため、人的・財政的支援と厳格な評価制度と連結した「鹿大特化研究プロジェクト(仮称)」を創設します。

●個性的な学部・研究科を有する全国でもまれな総合大学として、理系・文系間の連携研究を推進する仕組みを構築します。

* 研究者とともに研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用促進を行うことにより、研究活動の活性化や研究開発のマネジメントの強化等を支える業務に従事する人材

3 世界トップクラスの研究成果を生み出す先端的な研究を育みます。

●世界レベルの先端的な研究動向を的確にキャッチし、学内の個々の研究活動とのマッチングを行うためのURAを中心とした研究支援体制を強化します。

●国際的な研究を牽引しうる研究領域を指定し、国内外の第一線の研究者の招へいや海外の研究機関との共同研究、研究専任教授(テニュアトラック制度)の活用等を推進します。





5-③ 地域との連携、 地域への貢献

地域とともに地域の未来を拓く

1 地域の知の拠点として、産学官の様々な人と情報が交流する場を創り、鹿児島発イノベーションを生み出します。

●学外とのコミュニケーション窓口を一本化してコーディネーターを配置し、恒常的に情報交流を可能にする場を整備します。

2 地域を教育の場として積極的に活用するとともに、教育を通じた地域との交流を図ります。

●地域のニーズと学生のマッチングを進め、地域における様々な課題の解決にとともに取り組みます。

●地域資源を活用した教育に取り組み、学生や地域住民が広い視野から地域を深く理解することに寄与します。



3 地域における様々な課題や資源と関連した研究を進め、その成果を地域に還元します。

●災害多発地域に対応した災害・防災研究を進め、その成果を踏まえた地域防災力向上に取り組みます。

●急速な少子高齢化の進展や、離島・僻地という地域特性に対応した保健・医療・福祉包括的ケアシステムのあり方の研究を進め、その成果に基づいた疾病予防・健康増進の地域貢献に取り組みます。

●地域の農畜水産資源を活用した食品・生命科学に関する研究を活かして、地域資源の高付加価値化を支援し、地域の活性化に取り組みます。

●薩南諸島を舞台とする研究を通して、自然保全と共存した離島振興に係る先駆的な取り組みを進めます。



4 地場産業の国際的な展開など、地域の国際化に積極的に関わります。

●留学生の地域での就業機会を拡大させるために、自治体や地元企業との連携の強化と仕組みづくりを進めます。

●地域のニーズと鹿児島大学が有する人的・知的資源とのマッチングを積極的に進め、グローバル化の進む社会における地域課題の解決に能動的に取り組みます。

●地元就職をさらに推進するため、卒業生のUターン等を含めて就職支援のための取り組みを積極的に推進します。



5-4 管理・運営

人と知と地域をつなぐ

1 全学的な視点から適切な資源配分を行い、多様な学生と多様な分野を擁する総合大学としての個々の現場の個性を伸ばす運営を行います。

● 厳しい財政を有効かつ適切に投入するため、大学全体の状況を把握し戦略を構築するための組織を学長のもとに整備し、学長のガバナンスを強化します。

● 学長のリーダーシップの下で諸改革を推進するため、IRセンターを中心に幅広い情報の収集と分析を進め、課題に応じて理事及び副学長の下にワーキンググループを設置する等、迅速で機動力のある取り組みを進めます。

● 社会の変動やニーズの変化に対する的確な将来予測に基づいて、大胆な組織の再編成や人的配置の見直し、他大学との協力・連携を進めます。

● 安定的な財政運営を実現するために、ネーミングライツやクラウド寄附等の積極的な活用や、個人・法人を問わず国内外からの様々な寄附金の拡大を図るとともに、各部局の基金の強化等を進めます。

●大学の将来計画策定、管理運営機能等を強化するために、学長や副学長等を補佐する事務局機能を一層強化します。

●旧国立大学時代の紙媒体での事務体制から脱却し、ITを活用した効率のよい事務体制を構築します。



●人件費ポイントの適切な運用、既存の諸事業の見直し、寄附金の拡大等を通して確保した財源を、特色のある教育や研究の推進に活用します。

2 教職員が有する多彩な能力を適切に評価し伸ばしていくとともに、チームとして機動力のある組織を築きます。

●教員の評価について、研究のみならず教育や社会貢献等についても適切に評価し、優れた取り組みや成果を表彰していきます。

●クロスアポイントメント制度*や人事交流等により大学内の閉じた人材育成から



脱却し、研修制度の充実や職員提案制度の導入等により活力のある組織を築きます。

*研究者が大学、公的研究機関、民間企業などのうち、二つ以上の組織と雇用契約を結び、各組織における役割分担や指揮命令系統に従いつつ、研究・開発及び教育などの業務に従事することを可能にする制度

●鹿児島大学が世界的総合大学としてその魅力を発揮するために、教育、研究、地域連携及び貢献、管理・運営などの分野について、客観的な調査及び評価に基づき、各分野に適切に人材を配置し、適切に評価するシステムを整備します。

●働き方の見直しによる職場環境の改善を進めるとともに、テニユアトラック制度の拡大などにより創造的研究を担う若手研究者の育成に努めます。

●大学が行う地域貢献と国際化について、すべての教職員がそれに関連する技能や知識を身につけるよう、FDや研修を積極的に推進します。

3 鹿児島大学の取り組みと成果を国内外に積極的に発信し、魅力ある大学としての認知度を高めます。

●研究及び教育の成果について、様々な媒体を通して可能な限り多言語での情報発信を行います。

●ホームカミングデーの実施や同窓生組織の強化により、鹿児島大学の歴史・伝統に対する誇りを高める仕組みをつくります。

●鹿児島大学に在籍した留学生や海外在住の卒業生の組織化を進め、鹿児島大学を海外から支えるネットワークを形成します。



育て
創り
羽ばたかせる

